



えのしろ

四日市市立三重北小学校

令和4年3月25日発行

学校教育目標 心豊かにたくましく、ともに学び合う子どもの育成



令和3年度 三重北小学校卒業証書授与式

18日(金)朝から小雨の中、卒業証書授与式を卒業生と保護者各2名、5年生が代表2名とオンラインで別室参加という規模で実施しました。

卒業生は、緊張しながらも頼もしさを感じる姿で、卒業証書を受け取り、新たな中学校という世界の入り口に立ち、小学校6か年で成長した姿を披露してくれました。式場内で声をそろえて言うこと(呼びかけ)や合唱(国歌・校歌・式歌)などは、感染予防の観点から実施できませんでしたが、5年生代表の送辞と卒業生代表の答辞を行いました。しっとりとした雰囲気の中、感謝の気持ちや新たな決意があふれているものとなりました。ステキでした。



授与式後には「セレモニー」として、外で、卒業生が感謝の言葉と式歌を保護者の方や職員に贈ってくれました。児童玄関前で実施する予定でしたが、雨天の為、体育館への渡り廊下や体育館の軒下に子どもたちが間隔を開けて立ち、保護者の方は傘をさして外でという形態で、記憶に残る、そして、思い出となる「出来事」を創ることができました。卒業生の皆さん!最後の最後まで「ステキ」でした。あの場にいた者すべてが感動したのではないのでしょうか。卒業生に感謝です。健康に留意して益々の発展を祈念しています。

裏面には、授与式時間短縮のために、式辞の内容を事前に卒業生に配付した文書の「贈る言葉」を掲載しましたので、ご覧ください。

令和3年度 修了式・離任式

令和3年度も、令和2年度に引き続きコロナ対応の中での教育活動の実施でした。「3密(密閉・密集・密接)を避ける」「人数制限」「時間短縮」「マスク着用」「手洗い・手指消毒の励行」「県内への社会見学・修学旅行」等々。そんな規制・制限の厳しい中でも「子どもたちの学びを止めない」という信念のもと、教職員一同取り組みを進め、日々の学習や体験活動を実施できましたことは、子どもたちの意識の高さもありますが、保護者の皆様のご理解とご協力がなくてはできなかったことです。あらためて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

修了式では「自立(自分でできることは自分です)」「共生(誰かのために何かをしよう)」「チャレンジ(新しいことに挑戦しよう)」という年度当初からの合言葉を、子どもたちと確かめ合いました。「できることがいっぱい増えた!」「仲間と一緒にしたら楽しくできた!」「できるかなあと考えたこともやってみたら、できるようになった!」等、子どもたちの成長がうかがわれる言葉がたくさんありました。その成長したという「自信」を胸に、新しい学年にそれぞれが進級し、今の自分のありのままを受け止めて、新しい一歩を踏み出して、さらに成長して行ってほしいと願っています。子どもたちのたくさんの「ステキな姿」を見せてもらいました。ありがとう!

離任式では、異動する職員と退職する職員を紹介し、それぞれからお別れの挨拶をしました。三重北小の子どもたちと離れるのは辛いけど、また、新しい子どもたちとの出会いを楽しみに、本校で出会った子どもたちのことを忘れず、頑張っていくという決意の言葉がありました。

そして、私事ですが、本校に赴任してきて一年で定年退職をむかえることで、皆さんには大変ご迷惑をおかけします。もっと子どもたちや保護者の方々・地域の方々と本校のために取り組みを進めたいという思いがありますが、次の新しい学校長に引き継いでいきます。私の教職員生活の最後に「三重北小学校」があったことは、本当に幸せでした。私にとって人生の中でも忘れられない一年となりました。ステキな子どもたちと保護者の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。今後も未来を切り拓いていく子どもたちの姿を期待しています。

贈る言葉

ご卒業おめでとうございます。

この四月から中学校に進まれる皆さんに、心に留めておいてほしいという願いを込めて、「迷わず進め 正直の道」という言葉を贈ります。

この言葉には、「人生には、迷いはつきものであるが、いつまでも迷っていないで、自分の心と素直に向き合って決断し、一歩踏み出すことが大切である。」という意味があります。

この言葉を大切に、実行している人に、南極と北極大陸を世界で初めて、一人で横断した冒険家の大場光郎（おおば みつろう）さんという人がいます。大場さんは、北極大陸横断を四度目の挑戦で成し遂げました。途中でやめようかと何度も迷ったそうですが、自分の心と向き合い「横断したい」というその思いを、一歩一歩の歩みに込めて冒険を成し遂げたそうです。そして、大場さんは「アースアカデミー 冒険学校」を設立して、子どもたちのため、地域のため、地球のために、この冒険学校を拠点として「環境教育」などに取り組んでいます。



このことは、「YOKKAICHIレインボープロジェクト」に皆さんが参加した時に会った、ケント・モリさんにも通じます。ダンスを始めたのは高校生の時で、大学に進学したけど、自分の心と素直に向き合い、海を渡って、有名なアーティストに認められるようなダンサーとなるまで、何度もオーディションを受けたそうです。そして、世界で認められるダンサーとなりました。また、ケントさんは、「レインボープロジェクト」を企画して、「ダンスは、世界を一つにする。(DANCE IS 1)」という信念で、日本だけにとどまらず、世界各国で、ダンスを通じて「人権教育」などに取り組んでいます。



ところで、皆さんにも迷ったり悩んだりしたときに、一歩踏み出すことで状況を変えることができたということはありませんか。例えば、運動会での表現の取り組みでうまくいかなかったときや、修学旅行の計画や班活動の時に意見が食い違った経験などをありませんか。そんな時、「成功させたい」「何としてもやり遂げたい」という自分の素直な気持ちに向き合ったのではないのでしょうか。そのことによってうまく進んでいなかった活動が動き始めたり、仲間が力を合わせるきっかけになったりして、学級や学校が楽しくなり、自分の行動に充実感を覚えた経験があるはずです。

このように、自分の気持ちに素直に向き合い、行動に移したという小さな一歩が、大場さんやケントさんのような世界的な活動ではなくても、皆さんの一つの大きな宝物となって、こんにちの成長につながっているのです。また、その一歩を踏み出せたのは、皆さん一人ひとりの熱意にもよりますが、そばにいてくれた仲間や、見守り励ましてくださった家族や先生がいたことも忘れてはなりません。

これからも、自分の心に素直に向き合い、正直な自分を出して行ってください。たとえ小さくても一歩踏み出すことで、中学校生活という新たな「道」を切り拓いていくことができるのです。

迷わず進め 正直の道

という言葉を中心に留めながら、皆さんが未来に向かって、新しい一歩を踏み出すことを願って、私からの贈る言葉とします。

令和4年3月吉日

四日市市立三重北小学校長 高橋啓一